ポーランド旅行記

磯部直彦

【はじめに】

海鴎トラベルの行澤公子さんからのお誘いに乗り、ポーランドへの 5 泊機中 2 泊 8 日間に出かけました。参加メンバーは公子さんとその縁者 5 名の計 6 名でした。

旅程は、公子さんがポーランドへの旅行経験のある義妹と 2 人で世界遺産のクラクフに 2 泊、ワルシャワに 3 泊する予定で往復の飛行機とホテルを予約してくれたので、あとは空港に行くだけ、という気軽な旅でした。但し、細かい旅程は未定で、簡単な打ち合わせを羽田空港で行っただけのぶっつけ本番の海外自由旅行でした。

ポーランド観光と言えば、アウシュヴィッツやショパンゆかりの地の訪問だろうとイメージし、久方ぶりの海外旅行として穏やかな良い時間を過ごせそうという軽い気持ちで応募しました。クラクフという都市名も生れて初めて聞きましたし、地図で調べてアウシュヴィッツへの根拠地と認識しただけで前知識ゼロでした。ワルシャワもショパン国際ピアノコンクール 2021 で 2 位と 4 位に入賞した反田恭平と小林愛実の大活躍が印象に残っており、そもそもショパンが愛した祖国の現状を実際に見てみたいと思っただけでした。

結論から言うと、旅行はトラブルもなく大変楽しかったです。目的地のポーランドは色んな意味で素晴らしい国であり、色んなことを考えさせてくれました。接した人々（現地人および観光者）は親切で食事（ポーランド料理）は素材を生かした淡白な味付けで日本人の口にぴったりと合い、気候も国内に比べ寒いのですが抜けるような青空で爽やかな毎日を過ごせました。ポーランドはその語源通り平原が続く国でしたが、畑らしい畑（緑）が見当たらず、農業を行うには厳しい環境に位置していると感じました。ショパンのマズルカやポロネーズに代表される舞踊に接する機会は有りませんでしたが、陶器や陶板、工芸品、雑貨などの絵付けの華やかさなどには目を瞠りました。ポーランド語は全く勉強せずに行きましたが、アナウンスされる音に母音が多くて日本語かと戸惑い耳を澄ませてしまうほどでした。

概略はこれ位にして、具体的な旅行の報告をします。

【旅程概要】

10/15（火）関西空港　⇒　羽田空港　⇒（Finnair 機中泊）⇒

10/16（水）⇒ フィンランド・ヘルシンキ空港 ⇒ ポーランド・クラクフ空港 ⇒

（鉄道）　⇒ クラクフ本駅

クラクフ観光

バルバカン（砦跡）、フロリンスカ門（城壁）、中央広場、織物会館、聖マ

リア教会、聖ペテロ聖パウロ教会、ヴァヴェル城、テンペル・シナゴーグ、シンドラーの工場（博物館）

教会コンサート　20:00～　弦楽合奏　　@聖ペテロパウロ教会

Mercure Hotel 泊

10/17（木）アウシュヴィッツ博物館見学

クラクフ ⇒ （バス） ⇒ アウシュヴィッツ博物館

アウシュヴィッツ博物館＆ビルケナウ収容所跡見学（中谷剛ガイド）

⇒ （徒歩） ⇒ オシフェンチム駅 ⇒ （鉄道） ⇒ クラクフ本駅

Mercure Hotel 泊

10/18（金）クラクフからワルシャワへ移動

クラクフ観光

チャルトリスキ美術館（レオナルド・ダ・ヴィンチ「白貂を抱く貴婦人」鑑賞)、Wawel（ヴァヴェル）チョコレート本店

クラクフ本駅 ⇒ （鉄道） ⇒ ワルシャワ中央駅

スーパーマーケット・カルフール

Presidential Hotel（旧 Marriott Hotel）泊

10/19（土）ワルシャワ

ワルシャワ観光（1 日目）

ワルシャワゲットー、ワルシャワ蜂起記念碑、バルバカン（砦跡)、キュリー夫人博物館、ウィッシング・ベル、旧王宮博物館（レンブラントの絵画など)、旧市街広場、無名戦士の墓、ヴィジトキ教会（ショパンが演奏したオルガン)、聖十字架教会（ショパンの心臓安置)、コペルニクス像、ショパン博物館

Presidential Hotel（旧 Marriott Hotel）泊

10/20（日）ワルシャワ

ワルシャワ観光（2 日目）

ワジェンキ公園（ショパン像)、ワジェンキ宮殿（水上宮殿)、国立オペラ劇場、文化科学宮殿（30F 展望台）

Presidential Hotel（旧 Marriott Hotel）泊

10/21（月）ワルシャワ発

ワルシャワのホテル ⇒ （タクシー） ⇒ ワルシャワ空港 ⇒ フィンランド・ヘルシンキ空港 ⇒ （機中泊） ⇒

10/22（火）帰国

⇒ 関西空港

目次

準備期間（5/22～10/15） ――― 4
出発（10/15 火） ――― 5
クラクフ観光（10/16 水） ――― 6
クラクフからアウシュヴィッツ観光（10/17 木） ――― 11
クラクフからワルシャワへ移動（10/18 金） ――― 13
ワルシャワ観光 1 日目（10/19 土） ――― 16
ワルシャワ観光 2 日目（10/20 日） ――― 19
ワルシャワ出発帰途に就く（10/21 月） ――― 22
帰国（10/22 火） ――― 23
参考資料 ――― 24

【準備期間（5/22～10/15)】
公子さんからのお誘いの連絡に応答した直後に、「航空券の発券期限が 5/24 なのでそれまでに入金してください。」、と連絡が入り、その通りにしたことでポーランド行きが決定しました。早速ポーランドに関する本を 2 冊（歴史に関する中公新書[1]と工芸品を含む旅の案内書[2]を 1 冊）を購入して概要を掴むことにしました。
ポーランドの歴史に関する中公新書を読んで初めて欧州におけるこの国の位置が複雑な歴史のことを考えさせられました。西にドイツ、東にロシア、南にオーストリアがあって、陸続きなので侵略を受けて国土が無くなってしまう心配があるのですね。高校の世界史の授業を真面目に受けなかったせいか、ポーランドがその様な危うい地政学的位置にあることにこれまで思いを馳せることなく来たことを改めて認識しました。日本は海に囲まれているので元寇やペリーが来ても国が無くなることなく来たので、平和ボケしていてもいいや、と思っていましたが、ポーランド人は第 2 次世界大戦後にやっと国土を取り戻したのですね。私にはポーランド人とドイツ人やロシア人の区別が全くできないのですが、祖国愛の物語に満ちたショパンの様にポーランド人達は取り戻した国土に戻ってきて新しい国を創り上げたのですね。
世界各地からユダヤ人が集まってイスラエルができ、事情は複雑ながら（イギリスの二枚舌が悪い？）異なる宗教を信じるパレスチナの人達と骨肉の争いを繰り広げていますが、自身の国土や人民を守るためにはどんなことでもする状況を見るにつけ、陸続きの国を守ることの難しさを再認識しました。飛行機やミサイルで海を飛び越えるのは簡単になりましたが、尖閣や竹島、台湾本島に人を送り込み食料などの資材を供給・補給するには船が必須であり、今でもドーヴァー海峡を渡る大作戦が頭に浮かびその大変さを映像で見た者としては、海に守られているのは大きな安心材料であるように思います。実際にはサイバー攻撃という手があるので、人が大移動する前に事態はのっぴきならないことになるので、海に囲まれているから安全だというのは前世紀的な誤解かも知れませんが。

さて、ポーランドの観光に関しては、出発まで 1 カ月を切った 9 月下旬になって地球の歩き方の最新版（2025～26）が出ていることを本屋で知り、これも購入してホテルの位置、観光したい場所の確認、想定観光ルートの書き出しを行いました。また、ポーランド政府観光局に手紙を書いて、観光資料を請求しました（クラクフ、ワルシャワ以外の情報が多く、残念ながら参考になる情報は殆どありませんでした。)。
2004 年までは PC を持参して業務上の海外出張にも年間数回行っていましたが、ここ数年は退職しコロナ禍や円安もあり海外には長らく出ていませんでした。その間にスマホの利用が日常化して、海外でも使用しないと不自由と聞いていたのですが、何を

どうしたら良いのかが判然としませんでした。空港でルータを借りて持参するのが安価で便利と聞きましたが、ネットで調べると、docomo の海外ローミングサービス「世界そのままギガ」というのがあって、国内にいるときと同じ条件で docomo のスマホが使えてしかも料金が 6 日間 5 千円弱なので夫婦 2 人で利用すれば安価であることが分かりました。近くの docomo ショップに行って内容を確認し、簡単そうなのでその場で予約しました。説明冊子もくれて準備万端です。
ハード面では、従来から持っている C 型コンセントのコネクター2 個とタコ足用三口プラグ 1 個を持ちました。これらと国内で使用している充電プラグを使うとホテルで問題なく充電できると考えました。念のために街中でのスマホ充電用に Anker のバッテリーを購入しました。他社製より少し高価でしたが、機内持ち込み荷物のチェック時に著名なメーカー製の方が通りが良かろうと考えてのことでした。但し手荷物検査で止められることはなく杞憂に終わりました。旅行中充電には不自由しませんでした。

スーツケースは昔 2 週間程度の海外出張に使用していたものを押し入れから出してきて使いました。お土産が入れられるようにと行きは半分空のままゴロゴロと運びました。着替えは最小限にして、下着はホテルで洗濯することを見込んで 3 組だけ持ちました。ポーランドの気温は東京より約 10℃低いので、10 月中旬とは言え最高気温 10℃、最低気温 0 ℃と想定して、念のためにダウンのコートを入れました。到着日に空港で出して早速役立つことになりました。

【出発（10/15 火)】
少し早い昼食を梅田の阪急三番街のカスカードで摂り、すぐ近くの大阪空港バス乗り場から 12:00 発のバスで関西空港に向かいました。50 分で関空に到着。2F の国内線出発口で予定通り他のメンバーと合流出来ました。スーツケースは国内線 JAL（Finnair コードシェア便）のチェックイン時にクラクフ迄預けて身軽になりました。15:00 関空発羽田行きの JAL（Finnair コードシェア便）で羽田へ。出発遅れと羽田空港の混雑で 25 分遅れて羽田第 1 ターミナルに 16:40 着。国際線 Finnair のヘルシンキ行きは第 2 ターミナルから 22:00 発なので、第 2 ターミナルに無料バスで移動した後夕食を摂るなど自由行動となりました。

暫くラーメンを見ることもなかろうと食べ納めをと思ったのですが、フードコートの

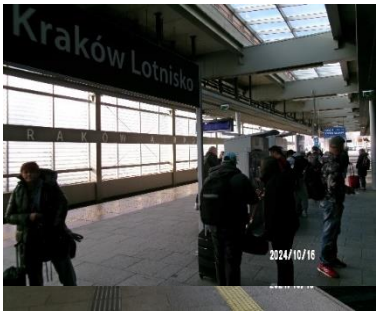
各種の料理が目に入り、結局天丼を食べました。東京は天麩羅屋が多くまた美味しい。予想に違わず日本最後の食事に相応しいものでした。
Finnair の日欧便は、最短時間で欧州に着くしサービスも良いと会社の欧州子会社の人から推奨されていたのだけれども、それはロシア上空を飛んでいた頃の話で、実際、アラスカの方を向けて飛ぶ軌跡をモニターで見て、第一のメリットは無くなっていそうでした。エコノミークラスでしたが、夕食と翌朝の朝食時には、コーヒーとジュースに加えて、共にワイン 1 本を無料で賞味できました。

ヘルシンキには 10/16 の早朝 5:00 過ぎに到着しました。時差が 6 時間有りますので（日本時間 10/16 の 11:00 過ぎ）目はバッチリです。公子さんの話ではヘルシンキ空港はリニューアルされていて随分奇麗になったとの事でした。ムーミンのお店は早朝で開いておらず、入国審査を経てクラクフ行きの便に乗り継ぎました。
クラクフには 9:00 前に到着しました。時差がヘルシンキから 1 時間あるので（日本時間－7 時間）さらに 1 時間得をした気分です。その代わり 10/16 は 24+7 時間となり、フルに活動する活力が残るか心配ではあります。

【クラクフ観光（10/16 水)】
クラクフはポーランド王国の古い首都として栄えた街で、ナチスドイツの侵攻時にも他の都市と異なり壊滅的な破壊は受けなかったことから、その歴史地区がユネスコの世界遺産に指定されています（1978)。アウシュヴィッツ・ビルケナウのナチスドイツの強制絶滅収容所（1979）やワルシャワの歴史地区（1980）の指定に先立つのも肯けます。ヴァヴェル城がその象徴となるし、旧市街には見所も多いです。

クラクフ空港に到着して形ばかりのパスポートと手荷物検査を受けて外に出ました。流石に寒いです。古都の雰囲気は全くなく、近代的などこにもある街のようです。空港での両替はレートが悪いとの予想から、空港ではなく街中で両替することにし、鉄道で市中に向かうことにしました。

日本の鉄道には必ず改札口ってのがあって、その前に切符を購入するのですが、海外においては改札が無くいきなり電車に乗り込むスタイルが多いようです。ポーランドの鉄道もそのタイプでした。空港駅からクラクフ本駅までは直通なので乗り場はひとつ。間違いない様です。但し、切符を持たないと無銭乗車とみなさ



れ高額の違反切符を切られるとの情報をガイドブックで得ていたので、まずは切符を購入すべく販売機を探しました。どうやらプラットホームの真ん中にドンと置いてあるようで、飛行場から出てきた見慣れた観光客達もここにたむろして居ました。機械が空いたのを見計らって 6 人分のクラクフ本駅までの切符を購入しました。ポーランド通貨の手持ちはなかったけれど元々カードしか使えなかったので支障は有りません。6 人分まとめて買いました。一般が 17 ｽﾞｳｫﾃｨ（以下ポーランド通貨ｽﾞｳｫﾃｨを Z と省略表記します）のところ、シニアは 11.9Z（3 割引き）で総計 81.6Z です。カードの認証に 3 桁の secret number を入れるように表示されるのですが、何回カードの裏の 3 桁の数字を入れてもエラーになります。数回の試行錯誤の末、日本で通常使う 4 桁の暗証番号を入れると良かろうと気付き、漸くうまく購入できました。

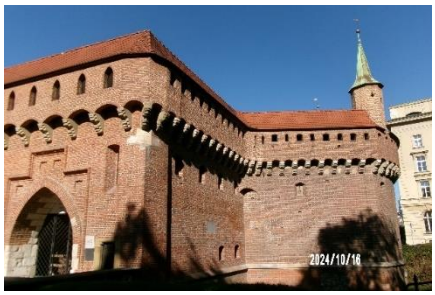
発車した車内には車掌らしき人物が徘徊しており、念のために切符を示したら何も言わず他の車両に移って行きました。シニアかどうかの確認にパスポート提示を求められるかと思いましたが、その様な面倒は起こらず、所要時間約 20 分でクラクフ本駅に到着しました。大きな駅で都会の雰囲気がムンムンです。
観光の前に、まず荷物をホテルに預けると思いきや、公子さんの提案で 2 日後のワルシャワ行きの鉄道切符と翌日のアウシュヴィッツ行きのバスの切符を入手することにしました。ワルシャワ行きの鉄道切符購入は窓口に行きました。老人割引は何歳からかと聞いたら 65 歳以上との事です。10/18 の 13:53 クラクフ本駅発 16:20 ワルシャワ中央駅着の列車のシニア 4 人と一般 2 人分を予約購入しました（一般 169Z、シニア 118.3Z（これも 3 割引き！））。ポーランドは老人に優しい国です。旧ワルシャワ条約機構国だから共産主義の名残りなのかも知れません。
アウシュヴィッツ行きの切符は、バスターミナルの切符売り場で買いました（一般 22Z、シニア 17Z)。アウシュヴィッツの見学の集合時間は 10/17 の 13 時です。バスの所要時間が 90 分なので、お昼に 1hr の余裕をみてできれば 10:30 までのバスに乗りたい。11:15 発のバスには空きがあったのですが、9:40 発のバスは空席が 5 席しかないために諦め、結局、6 席が確保できた 8:40 発のバスを予約しました。

交通の心配がなくなったので、次は両替。駅ビルの中で両替商を探しました。これが不思議と見つからない。Information で聞いても目的とする店が分からない。暫く歩き回って駅構内の B1F で漸く両替屋を見つけました。ここで持参した米ドルからポーランドｽﾞｳｫﾃｨに替えました。出国時にドルは約 150 円、ユーロは約 160 円、ズウォティ

は約 40 円であったので、まずまず reasonable なレートだったと思いました。不思議なもので、その後、両替商はその辺りに数店舗あることに気付きました。

そうこうするうちに昼も近づいたので、駅近（両替商の近く）のカフェでサンドイッチの昼食を摂ることにしました。サンドイッチと一緒にペットボトルの水を買ったので、飲もうとしましたが開栓ができません。とてつもなく固くて回すことができません。ポーランド人はこれを開けているはずと、お店のか弱き女性にボディーランゲージで開栓をお願いしました。何と彼女はこれを簡単に開けて見せたのでした。驚きました。コツがありそうですが結局分からず仕舞いでした。この栓の構造は日本の物とは異なっており、蓋が開栓後もペットボトル本体と一体となっているものでした。

さて、腹の虫も収まったので、ゴロゴロと荷物を引いて近くの予約済のホテルに向かいました。ホテルは Mercure Hotel で旧市街地の壁の外側で駅の北西 100m位に位置する便利な立地です。大変良いホテルでした。受付の人達もフレンドリーで、受付横でベーグルやヴァヴェルのチョコレートを配ってくれました。部屋もこじんまりとしていましたが、清潔でバスタブ付きでコーヒーなどもあり、ペットボトルの水も配備されていました。カードキーでドア開閉。難点は、トイレにウォシュレットが無いことだけです。



荷物を置いてすぐ観光に出かけました。
クラクフ旧市街地はこじんまりしているので徒歩での探索にぴったりの広さです。
まずはホテル近くの城壁に囲まれた旧市街地の北東部（クラクフ本駅近辺）から散策を始めました。まず気付いたのは木々に巣くう鳩の多さです。上空を群れで移動し、その最中に何物かを空中爆撃していきます。糞尿？真相は不明です。
直ぐ右手正面にフロリアンスカ門と城壁を護る砦跡のバルバカンが見えてきます。歴史を感じさせる場所ですが、他の建物と調和していて浮き上がる気配はありません。昔のままなのだろうか。門の正面に続くフロリアンスカ通りを真っ直ぐ中央公園に出ました。見渡したところ、この広場を見降ろす

位置に高いゴシック様式らしき教会の塔が見えました。聖マリア教会です。南に回り込んで入口の向かいにある建屋 1F で入場券を買って（15Z）聖堂の 1F を見学しました。くるっと回って 10 分程で入口に戻り外に出ました。

中央広場の中央には織物会館という大きな建物があり、そちらの 1F にある商店街でちょっとした買い物をしました。ポーランドの極彩色の陶板です。クラクフらしき街の建物群を平面にデフォルメして写したもので、楽しい絵です。1 枚 54Z で 3 枚買いました。記憶に留める土産品です。

ここからヴァヴェル城（Wawel 城）までは直ぐです。ちょっと回り道をしながら城に向かいました。実は、ここで今晩のコンサートのチケットをゲットしに本隊と別れて一人で、会場となる聖ペテロ聖パウロ教会に出かけて 1F の入口の直ぐ中にいた青年から 3 人分のチケットを取得しました（80Z×3）。急いで城に戻りましたが、本隊を見つけることができず、ヴァヴェル城の北出入口から南出入口に出て、ひとりぼっちでカジミエシュ地区（旧ユダヤ人街）のテンペル・シナゴーグに足を伸ばしました。観光客は殆ど居らず、入口に居る小母さんに入場できるか聞くと 15Z といわれたので支払って中に入りました。キリスト教会に比べると随分質素で、イスラム教会に似た印象の寺院でした。体育館の中に各種の装飾が施されている感じです。この後スマホで連絡が取れて、他のメンバーと映画「シンドラーのリスト」で有名なシンドラーの工場（博物館）で落ち合うことになりました。カジミエシュ地区からはトラムで 2，3 駅であることがガイドブックの地図で分かったので、トラムに乗りました。乗車後、20 分券（切符）を買おうとしたのですが、10Z 紙幣は有るのに 4Z のコインが有りません。困った様子を見た若い女性が両替して切符を買ってくれたので助かりました。異国でこの親切は大変有難い。日本で外人を見てこの

対応ができる人達がどれほどいるかと思うと少し心許ないなと思いました。満員のトラムでのこの対応には感謝し、次の駅で降りました。ところが、シンドラーのリストの工場は駅からかなり遠いようで、中々着きません。どうやら一駅乗り越したようで、工場と住宅街に車が渋滞していましたが、道を訊けるような人には出会いません。15 分ほど歩いたところで漸く労働者風の老人が前を歩くのを見つけたので、きいてみました。シンドラーだけをキーワードに話すと、ついて来いという。ちょっと酒臭い人で、変な所に案内されては嫌だなと思いつつ、15 分程歩いてもうすぐだと思ったところで握手をして別れました。結局このご老人も善意の方で良かったです。更に 10 分ほど歩き、レストランにたむろしている人達に聞いたら、その向かい側がシンドラーの工場跡でした。長く歩いたので汗をたっぷりかいていました。入場券を買い（36Z)、先に入っていた 5 名を探しに展示品を見るのもそこそこに駆け足で進みました。映画のシーンの様な写真が多く展示されており、説明を聞く観光客が 10 名程度ずつ固まって通路を埋めているために、先を急ぐことは困難でしたが、出口で漸く他の 5 人と合流することができました。
皆でトラム（20 分券 4Z）に乗ってホテルに戻りチェックインしました。
夕食は、旧市街の中央広場近くのお店でポーランド料理を堪能しました。初のポーランド料理に興味津々。牛肉のチーズ煮込み、ポークカツレツ、ピエロギ（大型の餃子、具は選べる)、大きなパンにシチューが入ったもの、ボルシチ（思っていたよりシャビシャビ）などを賞味しました。6 人なので、6 種類以上の料理を頼んでシェアできるので、色んなものを食べることができて良かったです。この旅行中各種のレストランで食事をしましたが、どのお店も味付けが比較的淡白で日本人好みと感じました。

食後、20 時からの教会コンサートには公子さんと私たち夫婦の 3 人で出かけました。他の 3 人はホテルで休憩です。聖ペテロ聖パウロ教会は、十字架状の床のクロス部分が舞台となっており、観客はその方向を向いて約 200 名がめいめい好みの場所に座りました。私たちは、礼拝する机付きの長椅子席の方が視線が高くなるので演奏者の姿や音が直接味わえると思い、硬い木製の長椅子に座りました。

定刻になると 6 人ほどの弦楽合奏者（バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス）が現れ演奏を始めました。バッハやヴィヴァルディ―など聴いたことのある小品が弦楽器の心地よい音色に乗って教会の高い天井や広いホールの隅々にまで響き渡りました。合奏する人数が少ないので大音響では有りませんが心地よい音で心が休まりました。無言のまま演奏は続き、トランペット、ギター、バイオリン、ピアノのソロ奏者

が都度加わり、10 曲ほどのクラシックの名曲が演奏されました。皆さんプロらしく非常に上手で、ピアノの音色は特に柔らかくて感心しました。プログラムに記載された演奏者をネットで調べると皆さん名のある方々で、特にピアニストは若手の有名人らしかったです。

演奏終了後にピアノの銘を見たら、スタインウェイなどの Major なメーカー製ではなくどうやらローカルのピアノメーカー製の様でした。
外に出ると吐く息が白くなる程寒く、手袋とマフラーが欲しい気温でした。ホテルへ帰る途上で翌日の朝食にするベーグルを買って帰りました。最後の客だったかも。
こうして長い一日が終わりました。スマホの万歩計を見ると 21,000 歩を超えていました。少々疲れました。

【クラクフからアウシュヴィッツ観光（10/17 木)】

8:00 ホテルのロビーに集合し、アウシュヴィッツに出発。バスは 8:40 発で、現地には食堂も何もない所との情報があり、昼食のサンドイッチを買って備えました。

バスは定刻に満席で出発。アウシュヴィッツには 10:00 頃到着。広い駐車場に多数のバスが駐車しており、どこにいたのかというほど多くの高校生、大学生、一般人などの団体が駐車場横の入口を目指して押し寄せていました。ドイツを初めとする欧州各国の学生は、ある年齢に達すると教育目的でアウシュヴィッツにやってくるのだそうです。実際、新設されたレストランで約 2.5 時間の休憩（時間待ち）をしていたら、次から次に見学を終えた高校生らしき一団が入ってきて、サンドイッチと飲み物が入った紙袋を引率の先生と思しき人から受取り、テーブルで同僚と話しながらこれを飲食しておりました。この弁当を用意しておらずにレストランでオーダーしている団体も有りました。新設レストランは出口のすぐ隣にあるので便利になったものだと思います（昔は何もなかったそうなので)。

12:30 になったところで入口に向かい、13:00 に日本人ガイドの中谷剛さんと合流しました。私たち 6 人の専属引率者となりました。パスポ

ートを提示して施設に入りました。働けば自由になれる（Arbeit macht frei.）というゲートをくぐり、建物群を見学します。建物は沢山あって、次から次へと案内されて入りました。いずれも80年以上の年月を感じさせない様にきれいに整備（再建）されていました。まだ工事中の建屋も有りました。勿論、多くの犠牲者が出たことを感じさせる展示品（眼鏡や鞄、靴など）がありましたが、怨霊に取りつかれない様にと持参したお念珠も必要なかったなと思いました。但し、立ったままで休めない狭い独房や銃殺場（死の壁)、ガス室などは80年前のことを想い起こさせるには十分な迫力が有りました。そもそも絶滅計画を実行することの意義はどこにあったのか、ユダヤ人はほんの一握りの集団であり、他の身体や精神上の不都合を持つ人たちを排除することが目的だったようですが、それにしても経済的に不合理だったはず（生産力としての活用する方がメリットが大きいのではないか？）なのに何故中断することなく計画を推進し続けたのか。銃殺が兵士に精神的負担の大きい方法なら毒ガスの使用も同様だろうに。ユダヤ人の血が1/2以下のドイツ人達（混血児）やその子孫もユダヤ人として排除する根拠は何か。全く解せない。共産主義者、エホバの証人、LGBTなども都合が悪いとして収容したと知りました。これらの収容所の実態をある程度把握していた欧米諸国がこの収容管理システムの異常さを認識しつつもこれを容認していたことも被害が継続し600万人にも及んだ一要因であると感じました。

アウシュヴィッツの建物群から、旧収容所長だったヘスが絞首刑になったという2本の柱を横目に見て外に出ました。

続いて、レストラン前から黄色の無料バスに乗ってビルケナウの収容所の見学です。約5分で写真等でよく見るあの「死の門」の建物と線路が操車場の様に続く収容所に着きました。荒涼とした平原に建物の暖炉の煙突だったレンガ柱だけが多数並んだところです。記念撮影をする観光者が多数いました。ここに運ばれた人々の心情や如何にといったと

ころです。丁度西に傾いた太陽の方向に案内されていきました。どこまで歩くのか、と端まで来て、ここに巨大な焼却炉があって、それをソ連軍によって収容所が解放されるときにナチスドイツ軍が証拠隠滅のために爆破した遺跡だと教わりました。イスラエルの方などは必ず供養に訪れる場所だそうです。ここから死の門まで歩いて戻ります。途中にガランとした建物がいくつか残っており、収容棟のほかにトイレ棟などもありアンネフランクも収容されていたとか。広い敷地ですので、寒くてとてもトイレ棟には行けなかったのではないかと推察しました。

13 時に始まった見学も、中谷さんの詳細な案内と質疑応答もあり、16:20 頃になって漸くビルケナウの出口にあるブックショップに出てきました。中谷さんから、クラクフ本駅に戻るバスが出てしまい、次の便は 2 時間後になってしまう。鉄道のオシフェンチム駅まで歩いて 15 分程なのでそのほうが早く帰れますと聞き、ここで中谷さんと別れて鉄道の駅まで歩きました。

クラクフ本駅に戻り、駅ビル内のポーランド料理店で今日も美味しい夕食が食べれて皆さん満足顔でした。レストランの選定はメンバー唯一の若者が一手に引き受けてくれましたが、いずれもとても良いレストランで有難かったです。
今日も 21,000 歩越えでした。

【クラクフからワルシャワへ移動（10/18 金)】
クラクフ最終日です。名残惜しく行きたいところが山盛りですが、チャルトリスキ美術館でレオナルド・ダ・ヴィンチの絵を見ることにしました。チャルトリスキ美術館の開館時間は 10 時なので、入口で暫く待ちました。行列ができるものと思っていまし

たが、日本国内と違って観光客が数名並んだだけでした。公子さんはイタリアから来た観光客とイタリア語で話していました。10 時前には従業員らしき人が数人鍵のかかった扉のインターホンで中に入れてもらう姿を目撃しました。

10 時になると何の前触れのアナウンスもなく従業員と同じように中に入れてもらえました。まず荷物を預けるように指示され、ロッカーに手荷物を入れて認証札を受け取ります。この扉が自動ロックになっていて、一旦閉じると開けるのに一苦労です。ポーランド語が分からないので 2 択のどちらを選択したらよいのかが分からないのです。6 名全てが荷物を預けて入場料を支払って（一般 65Z、シニア 50Z）中に入りました。

ロケーションマップが置いていないので、自分がどこにいるのかが皆目分かりません。渡り階段を渡って行くと刀剣や鎧兜などの武具や宝飾類の展示品が山のようにあり、なかなかダ・ヴィンチの「白貂を抱く貴婦人」に行き当たりません。係員にダ・ヴィンチは何処ですか、と聞くと 2F に上がり橋を渡って右に行けと。さっき通ったじゃないかと思っていくと、突き当りの部屋にそれは有りました。先程はその部屋の手前で曲っていたことに気付きました。

さて、白貂を抱く貴婦人とのご対面です。ここは、われら日本人の楽園です。写真は撮り放題、近づいて見放題でした。暫く見とれていましたが急かされることもありませんでした。帰りには中庭で白貂を抱く貴婦人（の写真）との記念撮影までできました。

美術鑑賞の後は土産品を見に中央広場に面したチョコレート会社の本店に参りました。ヴァヴェル（Wawel）です。ホテルのフロントでくれたチョコもここの製品でしたし、世界遺産のヴァヴェル城の名が付いているのでお勧めかなと思った次第です。

近くにはもう一つの老舗ヴェデル（Wedel）もあるようで、ポーランドのチョコレートは日本でも有名なようです。

いよいよクラクフを離れてワルシャワ行きです。昼食はクラクフ本駅でサンドイッチと飲料を買い込んで、ラクフに着いたときに購入した切符に記載された 13:53 発の列車に乗り込みました。連番で座席を指定していたのですが、ポーランド式だと横並び

にはならない様でした。仕方なく勝手に 2 人ずつ並びで座っていて、後から来た方に座席を代わってもらいました。
文字通りポーランドは平原の国で、高い山が目に入ることはありませんでした。予定通り 16:20 にワルシャワ中央駅に着きました。ここは大都会。現在のポーランドの首都です。クラクフは昔の首都でした。クラクフはナチスドイツに抵抗するまでもなく速やかに制圧されたために昔の建物がそのまま残っているのに、このワルシャワは抵抗したためか徹底的に破壊されつくした街とのことです。ところが、高層ビルは建っているし、米国資本のマクドナルド、KFC、Subway などが所狭しと並び、戦争の面影は全くない様に見えました。人口は約 170 万人とのことですから、神戸市（約 150 万人）や京都市（約 145 万人）よりも大きな都市です。因みにクラクフは約 80 万人です。

ワルシャワでの宿は Presidential Hotel（旧 Marriott Hotel）でした。歴代の米国大統領が訪れたことを示す写真が並んでおりました。なかなか良い Hotel でした。シャワー室完備のバスタブ付きバスルームは広いし、22F だったので見晴らしも良かったです。ここもウォシュレットは付いていませんでした。残念。あと 1 つだけ難点が有りました。バスルームにカーテンが無かったのです。隣の高層ビルからは丸見えです。宿泊に支障はないので良しとしましたが、少し気を遣いました。実はこのホテルではもう一つ問題が有りました。翌日の観光から帰って洗顔にバスルームに入るとなんか変です。タオルが有りません。これには参ってすぐ電話しました。ハウスキーパーにはつながらなかったので、フロントに苦情を言いました。直ぐに一組のタオルは届きましたが、もう文句を言う気力も出ませんでした。有色人種差別かな。朝部屋を出るときにハウスキーパーと出くわしたのを思い出しました。ちゃんと挨拶したのに。
アメリカでは何回か経験した人種差別にポーランドで遭ったとは思いませんが、解せない対応でした。アメリカ資本だと有り得るのかな？

翌日からの週末には閉まるお店が多いとのことで、買い物と夕食に出かけました。東の空には大きな満月が奇麗に見えました。そういえば前日の 10/17 はスーパームーンとの事。何処も同じ秋の夕暮れ。

買物は中央駅北側のカルフールへ。食品や土産物も豊富で翌朝のサンドイッチや土産物を色々買いました。便利。夕食はイタリアンにしようと歩き回りましたが、結局ホテルの前の道路を東に渡った目の前のビルの 1F と 2F にあるイタリアンに入りました。灯台下暗しで、なかなか良いお店でした。半分セルフサービスながらピザは美味しかったです。
今日は少なくて 11,000 歩程でした。

【ワルシャワ観光 1 日目（10/19 土)】
ワルシャワの街の観光は、2 度目となる義妹の案内でまずはゲットーに向かいました。生憎の休日（土曜）でしたが、たまたま居合わせた方の案内で遺跡の一つに辿り着くことができました。ラッキーでした。その後、ワルシャワ蜂起記念碑までひたすら歩きました。途中で、バス、トラム、地下鉄共通のウィークエンドパス（週末割引乗車券）を地下鉄駅の B1F 入口で買うことができました。グループ券もあって、48 時間（月曜の朝まで）乗り放題が 5 人まで 40Z でした。個人のウィークエンドパスは 24Z。大変お得です。これさえあればどこにでも行けそうです。但し路線図を持たない上に、行き先別の停留所の場所が分かり難くて、それもあって歩きに頼る一日になってしまいました。

旧市街地広場の西の城壁を北から南に辿りながら、右の剣を振上げた戦士の像のところを東に曲がって広場に出ました。広場は観光客らしき人達も多くて賑やかでした。疲れて丁度昼時になったので、ポーランド料理店に入って豪華な昼食を摂りました。

食後、バルバカン砦跡を通ってキュリー夫人博物館を訪れました（1 人 6 Z)。キュリー夫人が 2 度（物理学賞と化学賞)、旦那さんと娘さん夫妻もそれぞれがノーベル物理学賞を受賞した足跡を辿る博物

館です。100 年前にはデジタルデータは天秤で精度よく測れる重量ぐらいという条件下でよく幾つもの物理学および化学上の業績を上げたものだと感心します。ポーランドが生んだ偉人のひと固まりがこの地、その時代に存在したのは恐らく何らかの必然性があったのではないかと思いました。教育制度、周囲の人たちの教育水準、科学を受け入れる土壌、精度の高い機器を製造する技術がないと新発見はなされないと思うからです。現在のアジア・アフリカ地域は紛争に明け暮れ、その様な土壌に恵まれない状況が何世紀も続いていることは嘆かわしいばかりです。現在のキュリー博物館は小ぢんまりとした建屋ですし、キュリー夫妻も現在の物理学研究者に比べると貧相な環境で研究されていたのは間違いありません。冬は寒いし。冬寒いということは、疫病の心配が少ない（ペストなどの人が多い所に発生する疫病は別として）ので、研究環境としては優れているのかもしれません。

この後、コペルニクスの像も見ましたが、両者とも恵まれたこのポーランドという土壌が生み育んだ成果と感じました。ショパンの愛国心にも通じるものかもしれません。

博物館を出て、ウィッシングベルという天辺に触れつつ一周したら願いが叶うというベルを 1 周し、王宮広場に出ました。途中にあった標識には西日が当たっていましたが、その影がショパンの横顔になっているのには初め気が付きませんでした。「標識の隣に立って、写真撮るから。」、と言われて漸くその意味に気が付きました。

この標識のすぐ南側（広場の東端）が王宮でした。王宮の建物も例に漏れず戦時に徹底的に破壊し尽されたのだけれども、戦後に完全に建て直されたというのですが、立派な建物で修復の跡は全く分かりませんでした。現在は博物館になっています。中庭にある入口から入って内部の展示品を見て回りました（1 人 60Z）。調度品は王宮だけあって気品がありきらびやかですし、有田焼に似た陶磁器が廊下に展示されていたりし

て、絵画も歴史を感じさせるものばかりでした。どうやらドイツやロシアに運ばれていた宝物を戦後に取り戻して展示している様です。

レンブラントの絵画があるとのことであったので、それらしいものを探しましたが特に案内がある訳でもなく、立ち入り禁止柵の先に見える右写真の絵がそうかなと仲間内で頷きあっただけでした。

王宮博物館見学の後は、緑地帯（サスキ公園）を横切って無名戦士の墓を訪れました。兵士の霊廟は 2 人の衛兵に守られていました。ワルシャワは第 2 次世界大戦で破壊されつくしたことを忘れぬためか、廃墟をそのまま残していて、覗き窓のある塀に囲まれた区域がありました。

この後クラクフ郊外通りに出て、若い頃ショパンが弾いたオルガンがあるというヴィジトキ教会に行きました。1825 年に日曜ミサで演奏していたそうなので、100 年前に彼はこの景色を見ていたことになります。高校生ぐらいの団体が訪れていました。オルガンは光っていましたのでよく整備されて置かれていると思いました。

通りを 300m程南に進むと、右手（通りの西側沿い）にショパンの心臓が安置されているという聖十字架教会がありました。何の変哲もない堂内の柱なので見落として確認に戻った位だったのですが、祖国愛に満ちたショパンはポーランド人の誇りでありいつまでも心の拠り所の一つとして教会で大事に管理されているのだなと思いました。

更に通りを南に 100m程進むと左手にコペルニクスの像が見えてきました。彼は 500 年ほど前に地動説を唱えた物理学者らしく、地球儀らしきものを手にしてポーランド科学アカデミーの建屋の前の広場に堂々と座っていました。科学アカデミーの南の角を左に折れてジグザグと南東に坂道を下っていくとショパン博物館の前に出ました。

ショパン博物館は 7000 点を超える関係資料を保有するというショパンファンの聖地です（一般 30Z、シニア 20Z)。18:00 の閉館が近い 16:50 になっていたので、ここも駆け足での観光となりました。観光客は比較的少なくて、入ってすぐに多くあるブースでのヘッドホンを装着したショパンの楽曲のピアノ演奏（現代の名演奏家の CD）は聴きたい放題でした。観光客が多い時は、ここでショパンの音楽を楽しみながら時間待ちすることができる趣向なのかもしれません。

少し進んだ 200 人ほど収容のホールでのピアノ演奏は、演奏が始まっており満席の様で中に入れてもらえず、外で漏れ聞こえる音のみを少し鑑賞しました。演奏者の姿が見えなかったのは残念でした。2F に上がるとショパンの生涯を紹介するパネルに加えて自筆の楽譜（レプリカ？）などがオープンに展示されていました。また、各所にショパンの楽曲の演奏が聴ける 2，3 人用の円筒ブースがあり、ここでも CD を聴きたい放題でした。ショパンが開発に協力したというプレイエル社のグランドピアノも有りました。閉館時刻が近いので 3F には駆け足で上がりました。白や黒の胸像が 10 体近く並んでいました。説明表示からショパン、友人のジョルジュ・サンド、プレイエルやリストなどの像を探そうとしましたが、家内が全部ショパンじゃないの、と言ったのでそうかもなと納得して下に降りました。ブックショップで記念にメモ帳とコースターを購入しました。

この日の観光はここまで。ポーランドの誇るキュリー夫妻、コペルニクス、ショパンの遺跡や遺物を辿ることができた 1 日でした。ホテル近くのポーランド料理店でゆっくりポーランド料理に舌を打ちました。ピエロギや牛肉のシュニッツェル、ボルシチ、ポークチョップ、魚のフライやシーザーサラダなどは日本人の舌に合うようです。
万歩計では、今日も 21,000 歩以上を示していました。

【ワルシャワ観光 2 日目（10/20 日)】
日曜の朝です。ホテルから東側に歩いて 5 分程のカフェ Bistro Warszawa Café で朝食を摂りました。モーニングセットがパンと玉子（オムレツ、目玉焼き、またはスクランブルエッグ）で、飲み物は別途でした。6 人分で 251Z だったので、一人分約 42Z（約¥1700）でした。日曜朝の一般的な風景なのか、ポーランド人らしき子供連れが

何組かやってきて和やかに食卓を囲んでいました。朝から外食の習慣があるのか、観光客だったのかは不明です。また、一人できてささっとオーダーして食べて帰って行った男性もいました。
腹ごしらえができたので、トラムに乗ってショパンの像があるワジェンキ公園に向かいました。ウィークエンドパスがあるので、トラム、バスなどは乗り放題です。近くの停留所から少し歩きましたが、公園に入って直ぐにショパンの像が目に入ってきました。夏の間はピアノの野外コンサートが開かれるというベンチの先に円形の池があり、その向こうに黒い大きな塊がそれの様です。よく見るとショパンは椅子に座っていて頭の上に風に吹かれた樹々が覆いかぶさっている様です。10 月末で少し肌寒いためか閑散とした感じで、像の前での記念撮影は前後左右どちらからでも自由にできました。夏だとこうはいかなかったのでしょうね。

案内板にショパン像の真っ直ぐ先にワジェンキ宮殿（水上宮殿）があるとの情報があり、近そうだったのでそちらに歩きました。1km程有りましたが、木漏れ日を感じながらの林間散歩は心地よく、思ったより多くの観光客が遊歩していました。池も宮殿の庭園の一部をなしており、日本庭園の様なコンパクトで完成された印象はないものの、西洋の典型的で優雅な王宮の雰囲気を感じました。 12:00 を過ぎていたので宮殿内の見学はパスしてショパン像の方向に戻ることにしました。
ところが、宮殿博物館の係官と思しき若い女性が追いかけてきて、たどたどしい日本語で入館を勧めてくれました。ポーランド人が発する初めての日本語で、希望をかなえたいとも思いましたが、ワルシャワ観光最終日の限られた時間であることから丁重に断り宮殿を後にしました。

トラムでキュリー博物館近くの旧市街地の土産物店ドム・シュトキ・ルドヴェイに行き、日本へのお土産を買いました。日曜なので、ガイドブックで:チェックしていたポレスワヴィエツ陶器店はお休みです。ポーランドらしい色付けの

ミルクピッチャーやお皿、コースターなど安価なものから選びました。
遅い朝食だったので、昼はパスして旧市街広場に面したカフェ Green Caffe Nero で念願のケーキをお昼代わりに頂くことにしました。夫婦でケーキ３つを選んでシェアしました。チョコレートケーキ、バターケーキ、チーズケーキですが、何れも日本で食べるものに似て甘さを抑えた軽いケーキで美味しかったです。コーヒーも癖がなくて日本人向きと思いました。これは旅行中どこのカフェやレストランに行っても同様な感想でした。

ここのカフェは 1F でショーケース内のケーキと飲み物をオーダーして精算し、2F のテーブル席に持ち上がります。混雑した 1F で精算を済ませ（2 人で 81.5Z)、2 人分のケーキとコーヒーを持ち上がり、その美味しさに満足してさあ帰ろうと立ち上がったところで、階下の精算時に見覚えのある店員さんが 2F に上がってきていて、クレジットカードを取り忘れた人が居て預かっているのだけれど、と教えてくれたのです。そういえばケーキとコーヒーに気を取られて、精算に使ったクレジットカードを取り忘れたことに気付きました。店員さんは東洋人が珍しくて覚えていてくれたのかも知れません。1F に下りて直ぐカードを受取り、大事には至りませんでした。助かりました。今思えばこれが旅行中唯一のトラブルだったように思います。

カフェを出て、前日日没で行けなかった国立オペラ劇場に寄りました。カフェから 500m程南です。上手くいけば舞台や豪華な貴賓席などが見学できるかと思ったのですが、当日の夕刻から公演があるので断られました。残念ですが入口だけ見せてもらいました。

土産物が入った手荷物が邪魔なので、一旦ホテルに戻りました。荷物を置いて身軽になったところで、ワルシャワのランドマークである文化科学宮殿の見学に出かけました。この建物はスターリンからの贈り物だそうで、各種大ホールや研究所が完備されていて「文化科学宮殿」というのだそうです。ホテルからは間にワルシャワ中央駅（地下駅）を挟んで北東に

400m程の距離にありますが、大きいので入口を探して東から西へ、西から東へと数百m歩きました。丁度ワルシャワ映画祭なるものが開催されているようで、幟が建っていました。展望台への入口は東側に有りました。5分程行列して30Fまでエレベータで登りました（一般25Z、シニア20Z）。暮れかけたワルシャワの街が30Fの回廊から見渡すことができました。勿論私たちが泊まったホテルPresidential Hotel（Samsungの表示が目印）もよく見えます。但し、冷たい風が吹きつけてきますので、すぐに元のエレベータで戻りました。

ホテルまでの道筋で朝方閉まっていたコンビニに入り、明朝のサンドイッチとヨーグルトや飲み物を買って帰りました。

今日はポーランドでの最終日。またまたポーランド料理を食べに10分程歩いて出かけました。繁盛しているお店で、ほんの少し外で待ちました。思いっきり食べて飲みましたが、5人でチップ込み480Z（1人¥4000弱）。食事には満足した1週間でした。21:00にホテルに帰りました。

本日は18,000歩超でした。

【ワルシャワ出発帰途に就く（10/21月）】

公子さんの誕生日。部屋で前日にコンビニで買ったサンドイッチとブルーベリージュース、トマトジュース、いちごヨーグルトの朝食を摂り、9:00にチェックアウト。ホテル前で記念撮影をした後、9:20に予約してあったメルセデス・タクシー（8人乗りベンツ。6人の客が3人ずつ対面で座る。150Z+チップ15Z）で空港へ。楽ちん楽ちん。特段の渋滞もなく30分程で着きました。

皆で画面からFinnairセルフチェックインを実践し、荷物を預けて身軽になりました（10:20）。セキュリティーチェック後、ワルシャワ空港内を買物散歩しました。まずは残ったコインを全部使っての買い物です。Wedelチョコレートを買いました。残額はカード決済です。全部使い切ったと思ったのですが、後になってズボンのポケットに数Z残っているのに気付きました。今では立派な記念品です。その後、ポーランドらしい柄付き紙ナプキンを土産にしようと爆買いする（8セット、80Z）のに付き合い

ました。また、ヘルシンキ行きは 13:00 発なのでハンバーガーセットで腹拵えしました（1 人 49.9Z）。これらはいずれもカード決済です。コインは使い切ったと思っていましたので。
Finnair13:00 発のヘルシンキ行きは順調に飛びました。ヘルシンキ空港内では一番端にある遠い搭乗ゲートで出発を待ちました。時刻表をみると、関西空港行きとほぼ同時刻に羽田行きと成田行きもほぼ同時刻に出発するようで、日本人を久しぶりにパラパラと見かけました。17:45 発の AY067 便は順調に関西空港に向けて飛び立ちました。機内も日本人が多いのかと思いきや、満席の機内は殆どが外国人でした。関空経由で東アジア等に向かう人達も利用しているのであろうと推察されました。

【帰国（10/22 火）】
ヘルシンキを飛び立った Finnair 機は、何となんと私たちが午後に出発したクラクフ方向に南下し、関空を目指しました。ロシアがウクライナに侵攻しなければ、北東方向のシベリア経由で数時間早く着いたであろうに、残念でした。航路をモニターで見ていると、ウクライナのキーウの西方、カスピ海上空を通り、中国上空をシルクロードに沿って偏西風に乗って 900～1000km/h まで加速して北京を目指しておりました。朝鮮半島を経て松江上空に入り大きく南に回り込んで、和歌山市を右に見て紀伊水道を北上して関空には定刻の 15 分前 12:20 に着陸しました。都合の良い風が吹いていたのか、中国上空ではどんどん加速していったようでした。
6 人組は関西空港に着いて直ぐに解散しました。何事もなく全員無事で良かったです。

空港外に出てまず感じたのは蒸し暑く、空が曇っていること。ポーランドは日本（東京）より 10℃程涼しく、季節が冬に向かっていたからでしょうか、空気が乾いていて水蒸気が少ない様で、青空が青くてかすむことが全くなかった様に思います。日本では山が霞むことで視界が確認できますが、山が見えない分ポーランドでは霞を確認しにくかったことに気付きました。

振り返ってみると、大変慌ただしい 1 週間でありました。また連日 2 万を超える歩数で歩き回ったのは老人には少しハードでありました。もう少し楽な観光もあったのでしょうが、まずは想定範囲内のハードさで充実した楽しい毎日でした。
期間的にはあともう 1 週間あればクラクフ近郊の世界遺産ヴィエリチカ岩塩坑やワルシャワはもとより他の都市・観光地を訪れることもでき、更に盛り沢山の濃厚なポーランド観光ができたかとは思いますが、少し余力（余韻）を残して帰るのが大人の旅かな。公子さん初め同行した皆さんには大変お世話になりました。有難うございまし

た。またお疲れ様でした。
またの機会を楽しみに筆を置きます。

【参考資料】

1）「物語 ポーランドの歴史　～東欧の「大国」の苦難と再生～」渡辺克義著、中公新書 2445（2017）
2）「旅のヒント BOOK　ポーランドへ　～中世の街と小さな村めぐり～」（最新版）、藤田泉著、イカロス出版（2019）
3）「地球の歩き方　チェコ、ポーランド、スロヴァキア 2025～26 年版」地球の歩き方編集室著、株式会社地球の歩き方（2024）